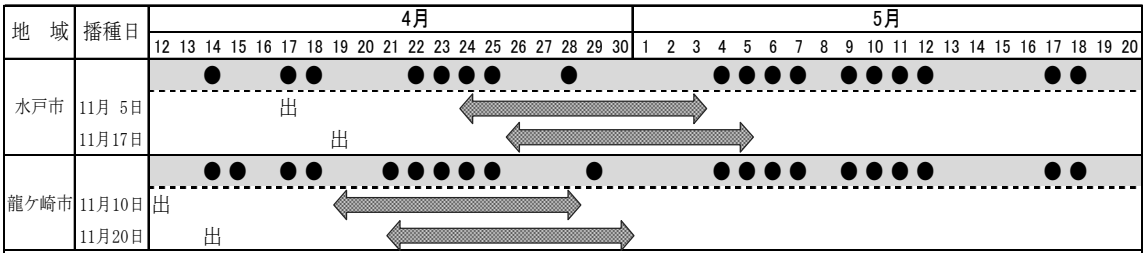
防除所レポート［小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について］

［現在の状況］

① 5 月中旬現在，小麦の赤かび病の発病穂率は平年よりやや高い(本年値 1.0%，平年値 0.4%)。

② 小麦が赤かび病に感染しやすい時期は開花期(出穂期 7～10 日後)から 10 日間程度である。今年は，「4 月 21 日から 25 日まで」および「5 月 4 日から 12 日まで」に本病の感染好適条件が連続して出現した（図)。

図　小麦の出穂期と赤かび病菌の子のう胞子飛散好適条件の出現状況(農業研究所)



●　：子のう胞子の飛散好適日
（日最低気温 10℃以上，日最高気温 15℃以上で，湿度 80%以上か降雨日とその翌日。ただし，アメダス龍ケ崎は湿度データがないため，気温と降雨条件のみ参照した。）

出　：出穂期(圃場の 40～50%程度の茎が出穂した日)

⟺：感染しやすい時期(開花期（出穂期の 7～10 日後）から 10 日間)

※地域や圃場により出穂期や飛散好適条件の出現状況は異なるので，参照の際は注意する。

［収穫期以降の対策］

① 収穫が遅れると，被害粒から健全粒へと感染が広がる恐れがあるため，適期収穫に努める。また，圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり，感染が広がっている恐れがあるため，その部分は刈り分けて処分する。

② 含水率の高い麦を収穫した場合，袋の中で本菌がまん延することがあるので，収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。

③ 小麦では，グレーダーによる粒厚選別（2.4mm 以上）等は被害粒の除去に有効である。